

雑誌搬入上の留意事項

第4版（2025年11月改訂）

日本出版取次協会

I <目的>

多品種、大量部数、商品価値維持の短期性という雑誌のもつ特性、更に、読者及び小売店からの強い要望である、全国定日一斉発売を遂行するためには、印刷、製本、取次、輸送、小売店等の流通上の各段階における、円滑かつ効率的な作業が必要である。

一方、雑誌出版業は、読者、社会との信頼で成り立つ文化産業と位置づけられており、返本処理を含む環境問題、店頭環境等に十分な配慮が求められている。

当「雑誌搬入上の留意事項」は日本雑誌協会作成「雑誌作成上の留意事項」に基づき、流通上の問題点に特化した留意事項をまとめたものである。

II <対象とする雑誌>

ここで対象とする「雑誌」は、定期雑誌の他増刊、別冊、ムック、雑誌扱いコミックスも含む。

また、雑誌流通で取り扱いしている「セット」「拡材」についても留意事項を掲載する。

※セット＝特定の雑誌・コミックス等を一箱にまとめた状態で搬入・発送する仕組み

※拡材＝「拡販（拡大販売）材料」の略。商品の販売促進を図るためのポスターやPOP広告など。

III <搬入日と伝票決定>

雑誌は「同一地区同時発売」が定められており、その発売日に商品を届けるため、販売会社は“送品伝票日付”にて管理・出荷している。

送品伝票日付の3営業日前には送品伝票を作成（伝票決定）し、出荷作業を開始する。

商品不備等により発売が延期・中止される場合、3営業日前を過ぎると販売会社においては事故処理対応が発生する。

各出版社においては、商品搬入に影響を及ぼすトラブル等が発生した場合は、速やかに当番社の雑誌進行委員まで一報を入れ、対策を協議すること。

月ごとの当番社サイクルについては、日本出版取次協会HPに掲載している「当番社一覧表」に準ずる。

※「週刊誌」「計画誌」については特別作業を実施している関係上、一般誌と比べ、伝票決定日を繰り上げて設定しているため、注意が必要。

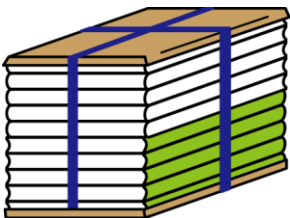
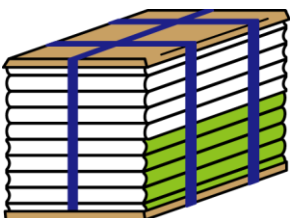
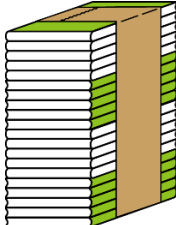
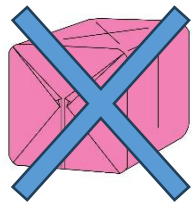
IV＜搬入時の荷姿＞

各販売会社では、搬入から短期間で複数商品を組み合わせで荷造りし、各書店様に出荷している。定形外の形状で搬入されると、出荷時の荷姿や出荷効率が悪化し、書店店頭への着荷遅延や、商品破損に繋がる可能性がある。

商品に破損を生じさせることなく、かつ円滑に商品を出荷するために、搬入時の荷姿について下記のルールと基準を定める。

＜ルール＞

- ・雑誌は本誌・付録を一結束にした状態で各販売会社に搬入する。
- ・結束は束の上下に当て紙が必要。当て紙の大きさはカド折れや結束跡が残らないよう大きさや配置には十分に配慮をすること。その上で十字結束（もしくはキの字結束）を行う。
（雑誌扱いコミックスはクラフト紙（ハترون紙） 帯掛けで結束）

OK			NG
十字結束	キの字結束	クラフト紙 帯掛け	キャラメル梱包 (完全梱包)
 ・一般的な結束方法	 ・判形が小さく、2列で結束するときなどに使用	 ・コミックスの結束方法	 ・全体を包む梱包はNG

- ・別添付録がある場合は、本誌の上に付録を載せた状態で結束する。
その際、結束が凸型にならないよう注意する。凸型結束は破損や荷崩れに繋がる。
付録サイズが本誌の1/2以下の場合、複数面載せすることで結束が平面になるよう配慮し、パレット積みした上で搬入する。
- ・結束時の駒返しはキリの良い冊数で行う。（例 5冊、10冊）
※駒＝1単位・1区切りという意味。切り違い集積するときの一定方向の数冊を1駒という。

＜基準＞

- ・1冊あたりのサイズ規定： A6（148mm×105mm）～B4（364mm×257mm）
- ・1結束あたりの高さ及び重量規定： 束(つか)： 100mm～300mm 重量： 2kg～10kg
- ・A5、A6、B6判の結束は、シングル結束の場合、重量1kg～5kg、ダブル結束の場合、2kg～10kg

・パック（複数巻セット）のサイズ規定：

束(つか)： ～ 60mm （サイズは1冊あたりのサイズ規定に準ずる）

※バラ売りを避けるため、内容物それぞれのバーコード記載は削除すること。

※出荷時と返品時で雑誌コードが異なると、正しい販売数データを取得できなくなるため、パック用商品はISBNコードを新たに取得し、返品再活用品は使用しないこと。

・セット（及び 一個出し）のサイズ規定：

最大サイズ：（縦）420mm ×（横）300mm ×（高さ）350mm

最小サイズ：（縦）205mm ×（横）180mm ×（高さ）50mm

重量： 2kg ～ 10kg

※一個出し＝他の商品と組み合わせず、単体で出荷する方法。

・拡材のサイズ規定：

【封筒入り（混送）】

サイズ： 基本的に角2封筒サイズ（332mm×240mm）以下。

但しB4（364mm×257mm）までは可。 厚さ： ～50mm

※混送＝雑誌の荷物に拡材を混ぜて出荷する方法。

※凹凸の無い形での搬入を厳守すること。凹凸がある場合、他の商品と混送ができなくなり、場合によっては取り扱いが中止になる可能性がある。

※角2封筒のサイズを超える拡材は別途進行委員会まで相談すること。

【段ボール入り（混送）】

サイズ： A5（210mm×148mm）～B4（364mm×257mm） 厚さ： ～50mm

【段ボール入り（1個出し）】

サイズ： セットのサイズ規定に準拠。

<注意事項>

1. 記載のサイズを超過した場合、出荷時にコンベアに載せることが出来ない。

サイズ・重量超過等により各販売会社の出荷現場にて特別な対応が発生した場合、別途費用負担をご協力頂く場合がある。

2. 記載サイズ内であっても、極端に基本判型（A判・B判）と異なる場合は、雑誌進行委員会にて荷姿確認を受けること。

3. 搬入には雑誌専用パレット(110cm×90cm×13～14.5cm 片面使用2方差し)を使用。

※両面使用4方差しは使用不可。

パレット積載重量 1 トン、高さ 150 c mまで（パレット分含む）

4. 1個出しする場合は、商品に宛名紙を直接貼って作業を実施する。

セットや拡材の輸送ケースに『化粧箱』としての付加価値がある場合には、宛名紙を直接貼ることを防ぐため、また輸送上の荷傷みを防ぐ観点からも、段ボール等で保護した上で、各販売会社まで搬入すること。

またセット・拡材の搬入は伝票日付の3営業日前の午後（土曜の場合は午前）搬入となる。

V <付録について>

付録の形式・材質については、日本雑誌協会作成「雑誌作成上の留意事項」に準拠する。
特殊な貼り込み・別添付録をつける場合、各販売会社の雑誌進行委員まで相談をすること。
当項目では特に相談が多い付録案件について、可否と注意点を記載する。

・付録を入れる箱・ケースの強度について

付録を入れる箱・ケースについては、搬入時・輸送時のみならず、読者の手元に届くまで、荷姿を保つことが出来る強度が必要である。

・本誌/増刊・別冊等での共通付録について

雑誌付録には「当該雑誌名・月号」の記載が必要（※「雑誌作成上の留意事項」参照）であり、そのルールを順守していれば共通付録を添付することは可能である。

ただしこの表記が不明瞭だと、各販売会社での出荷作業や店頭でのセット組み作業に支障をきたす可能性がある。

共通付録を添付する際は「当該雑誌名・月号」に加え「共通付録」と必ず表記すること。

例) ○○○○4月号・○○○○4月号増刊・共通付録

なお、共通付録を含む別添付録点数が本誌と増刊等で異なる場合、表記について雑誌進行委員に事前に相談すること。

・梱包箱の形状が特殊な付録について

本誌の1/4サイズ以上であれば、付録として取り扱いは可能である。

ただし雑誌流通は商品・付録を積み重ねて結束し発送する関係上、梱包箱の形状が特殊な場合、自社商品・他社商品を破損させてしまう恐れがある。

出荷時の荷姿が安定することも見据えて、付録作成するようお願いする。

・ランダム付録について

全ての書店様に均等に付録物を出荷することは、雑誌流通の仕組み上出来ない。

また「購入の際に中身が確認できない」「一冊購入しても全種類集めることが出来ない」ことから、付録ではなく「景品類」と捉えられる可能性がある。

景品類には提供に関する価格制限等があることから、もし実施をする場合は、各社の法務見解と照らし合わせて検討をお願いする。

・鋭利な付録について

搬入時・輸送時・お客様購入時において、安全面に十分配慮した形状であり、かつ雑誌進行委員と事前に相談の上であれば、取り扱い自体は可能である。
ただし、空港内部の店舗など、店舗ごとの判断として取り扱い不可になるケースや、刃渡りのある付録の場合、各都道府県条例により販売できないケースも存在するため、部決時には各販売会社の仕入担当者にも付録内容・形状について申告すること。

・液体付録/匂いつき付録について

雑誌付録として取り扱いは可能である。
ただし液漏れ/匂い漏れした場合、自社商品のみならず、混送の他社商品まで汚破損させてしまう可能性がある為、付録をOPP袋に包むなど十分な配慮をした形状で搬入すること。

・厚みのある付録について

付録の厚さについて規定は無いが、厚みのある付録は店頭での販売も考慮に入れて制作を行うこと。取次会社の出荷時の荷姿や出荷効率が悪化し、書店店頭への着荷遅延も招く恐れがある。また、店頭において本誌に挟み込み、紐掛け等を行うと、表紙が折れ曲がり、破損する可能性がある。事前に雑誌進行委員に相談すること。

・スプレー缶/可燃性物質について

輸送時のトラック庫内は高温となるため、安全面を考慮し取り扱いは出来ない。

・食品について

賞味期限／消費期限内の返品を徹底することが困難であること、
輸送時のトラック庫内は高温となり、品質劣化の恐れがあること、
返品時の廃棄処理に手間がかかることなど、
上記の安全上、流通上の理由から食品付録の取り扱いは原則出来ない。
(※詳細はQ&A参照)

・過重付録について

1kgを超過する付録を別添付録とする場合、各販売会社での作業工程上、自社商品・他社商品を破損させてしまう恐れがある。
事前に雑誌進行委員に付録形状確認を含めて相談すること。

VI＜拡材について＞

雑誌の販促を目的とする拡材であれば、出版流通網を使用して発送することが出来る。
ただし拡材には価格が存在しないため、各販売会社が定める拡材運賃が別途必要となる。

拡材の搬入形態は「封筒入れ」「箱入れ」のどちらでも可能。
他商材との混送になるため、封をした状態で、荷姿安定のために
平面になるような荷姿で搬入すること。詳細はIV＜搬入時の荷姿＞に準ずる。

搬入日は伝票日付の3営業日前の午後搬入（土曜は搬入不可。前日に繰り上げ）で設定する。
宅配便を利用して搬入する場合、搬入遅れを避けるため3営業日前の午前必着とする。

VII＜週刊誌について＞

週刊誌は一般誌と異なり、情報の即時性を保つために搬入即出荷するケースが多い。
各販売会社では8時半から出荷作業を開始するため、搬入の遅れが出荷遅延に直結する。
週刊誌を発行する出版社は、製本所と進行状況を随時確認し、万が一搬入に遅れが発生する場合は、
当番社の雑誌進行委員まで早急に申し出ること。

★業量平準化へのご協力をお願い★

平素は、業量平準化につきましてご理解ご協力を賜り、
誠にありがとうございます。

しかしながら、月の上旬の業量が少なく、下旬に集中する傾向が
依然として残っている状況であり、
すでに輸送面において大きな問題になっております。

雑誌進行委員会では各出版社様に不定期誌の発売日事前申告や、
本誌発売日のジャンル移動にご協力を常日頃からお願いしております。

各出版社様におかれましては、厳しい状況下の中、大変恐縮ではございますが、
出版配送を維持していくために、引き続き何卒ご協力をお願い致します。

版数	発行日	改定内容
第 1 版	2021年10月	初版発行
第 2 版	2022年3月	IV章 結束荷姿の画像を追加 VI章 土曜日搬入の訂正 (午前搬入 → 搬入不可。前日繰り上げ)
第 3 版	2023年3月	V章 本誌/別冊 同一付録表記の訂正および追記 (同一付録 → 共通付録) 鋭利な付録 刃渡りのある付録について一文を追記
第4版	2025年11月	IV <搬入時の荷姿> <ルール> キャラメル梱包NGの図解を追加 <基準> A5、A6、B6判の場合の結束重量を追記 V <付録について> ・ 付録を入れる箱・ケースの強度について追記 ・ 厚みのある付録について追記

2021年（令和3年）10月1日発行

一般社団法人 日本出版取次協会（雑誌進行委員会）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階

TEL 03（3291）6763

FAX 03（3293）6765

なお、本件に関するお問い合わせは、各月の当番社 雑誌進行委員までお問い合わせください。